

発 刊 に 寄 せ て

塩竈市校長会

会 長 竹田 幸正

始めに東日本大震災によりお亡くなりになった方々に深く哀悼の意を表しますと共に、被災されました皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。また、世界や日本各地から心温まるご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げる次第です。

これまで体験したことがない甚大な被害や生活の混乱、大きな悲しみをもたらした3月11日という日は、私たちの心に忘れることの出来ない日として深く刻み込まれました。そして、自然災害の恐ろしさと、それに対する備えの必要性について問いただされたように思います。

地震発生から21日間、市内全ての小中学校が避難所となり、その対応に当りました。その間、連日のように校長会や連絡会が市教育委員会で開催され、児童生徒の安全の確保や避難所への対応、復旧のための協議が活発に行われました。また、各学校では、避難された方々に対し、市職員と教職員が一丸となって支援活動を行い、多くの市民の皆様から感謝されました。「学校は地域に浮かぶ船」と言われますが、地域と共に在り、共に生きるという学校の役割を改めて認識したところです。

震災からこれまでの間、各学校は、市教育委員会の指導を受け、地域の方々と力を合わせて学校の復旧復興に努力し、震災前の姿に戻りつつありますが、児童生徒に対する就学援助や心のケア等については依然として課題があり、今後も手厚い対応が必要です。

また、各学校には、児童生徒が自らの身を守り、防災や災害時の対応について理解した上で主体的に行動できる力を身に付けさせることが求められております。さらに、ふるさと塩竈の復興を担う児童生徒が、塩竈を愛し塩竈で生まれ育ったことを誇りに思えるような学校づくりに努められるよう、全力を上げて取り組むことが望まれます。

今回、市教育委員会と各学校が協力して、今後の防災教育の一助に資することを目的に、大震災による被災状況や対応等について記録として冊子に残すことになりました。

各学校では今回の震災の教訓を生かすべく、地震発生時やその後の対応について冷静に分析し、避難場所の設定や誘導の仕方、避難所開設や学校の対応等について検討を重ね、防災教育や防災計画の見直しを図ってまいりました。危機管理マニュアルの改善についても、授業や休憩時間ばかりではなく、校外学習や登下校中の災害を想定し、それぞれに対応した緊急措置を定めました。また、児童生徒を保護者に安全に引き渡す場合の方法を明確にして各家庭に周知するようにしました。

本冊子は、各学校の英知を結集して作成したものであり、必ずや参考になるものと思います。しかし、立案した防災教育や防災計画の実効性をより高めるためには、何よりも日ごろの避難訓練を充実させる以外にありません。学校の立地条件等を考慮しながら、地域や家庭を巻き込み、常に危機意識をもった避難訓練を実施することが大切だと考えます。

結びになりますが、発刊にご尽力いただきました各関係機関の皆様方に心から感謝申し上げます。復興に向けての力強い一歩を読み取っていただけるものと思います。そして、本冊子の内容が皆様方に共有され、貴重な財産となることをご祈念申し上げ、挨拶といたします。